

原田市長の

さんぽみち

散歩道



11月11日から3泊4日で、議員や市民の皆さんなど107人と、静岡空港からチャーター便で台湾の屏東県を訪問した。

鳥居信平氏が造った地下ダム「二峰圳」は、林辺溪という川の中流部にあつて、あたりの風景が何となく太田川に似ている気がした。

現場では、国立屏東科技大学の丁教授が学生と共に日本語の資料で説明してくれた。河床の下25mにある伏流水を掘でせき止め、日量25万トンもの水を送り出している。このダムが80年以上前から住民の生活を潤してきた。と思つて、改めてその着眼のすごさに感動した。

屏東県庁では、「袋井市の二行を歓迎panel」と書いた赤い横断幕の下で、曹県長と7月以来の再会をした。県長から「これほど大勢の日本からの訪問団は初めてで驚いている。屏東県は寒さを知らない亜熱帯に位置し、時がゆつくり流れて、心が安まる所なので、今後もうつてもおつたわ」とあつた。

鳥居信平氏の胸像を作ってくれた許文龍氏は、台湾有数の実業家で、膨大な収集品がある美術館を所有していた。そのホールで、同行の「ふくろうオカリナ合奏団」のメンバーと許氏のバイオリンのアンサンブルも楽しんだ。

「戦前の日本の台湾統治にも光と影がある。鳥居氏のダムのようにインフラの整備によって住民生活が豊かになったり、日本の丁寧な学校教育と熱心な日本人教師により、規範意識や識字率が向上したりして、30年後の台湾の経済発展の一因になっていることを感謝している」という許氏からの言葉があつた。

「台湾屏東県を

訪ねて

今回の旅は、私たちが誇りに思っている鳥居信平氏の偉業をこの目で見ることに。その地下ダムを評価し、今でも鳥居氏に感謝している屏東県の人たちと交流を深めることであつた。

この時代でもどんな状況でも、無私な心で、他人のために一生懸命尽くすことがいかに人の心を打つかつたか、このことを身を持って知つた気がした。

1人分の野菜量150g



●添え物(分量外)：サツマイモの皮を厚めにむき、油で素揚げしました。

『毎月19日は、食育の日』いつもの調理方法とは一味変えて だいこんの竜田揚げ

●材料(4人分)

- ダイコン…………… 1/2本
- 米…………… 小さじ1
- ニンニク…………… 1片
- ショウガ…………… 20g
- ゆずの皮…………… 小さじ1
- しょう油…………… 大さじ3
- 片栗粉…………… 1/2カップ
- 揚げ油…………… 適宜
- すだち…………… 適宜
- 青じそ…………… 4枚

●作り方

- ①ダイコンは洗って皮付きのまま5cmくらいの乱切りにする。
- ②①と米を鍋に入れ、水をひたひたに注ぎ、強火にかける。沸騰したら中火にして、5分ほど(竹串がすっと通るようになるまで)ゆでる。ゆで上がったたら、水気をきって、米を洗い流す。
- ③ニンニク、ショウガはすりおろす。
- ④ビニール袋にダイコン、③、すりおろしたゆずの皮、しょう油を入れて混ぜ、15分くらい置く。
- ⑤揚げ油を170℃に熱し、ダイコンに片栗粉をまぶして揚げ、青じそを敷いて盛り付ける。好みですだちを絞ってお召し上がりください。

●栄養価(1人分)

エネルギー181kcal/たんぱく質1.9g/脂質9.2g/カルシウム42mg/鉄0.7mg/ビタミンC19mg/食物繊維2.2g/塩分2.0g

●薬膳まめ知識

ダイコンは加熱することで体を冷やす性質が和らぎます。殺菌・発汗作用のあるニンニク、ショウガで風邪の予防も。

表紙のことは

11月8日、原野谷川親水公園で「つめざせ日本一防火のまち」袋井消防フェスタが行われ、会場は、たくさん家族連れでにぎわいました。

市民の火災予防に対する知識と関心を高め、安心して暮らせるまちづくりを目指すことを目的に開催したもので、消防団員や消防署員らが市民に防火をPR。親子で放水やはしご車の乗車体験、レスキュー体験などに挑戦し、楽しい時間を過ごしました。



袋井市メール配信サービス「メローねっと」

◇携帯電話やパソコンのメール機能を利用して、防災情報やイベント情報など、暮らしに役立つ行政情報を市民の皆さんに配信しています。

◇登録は無料です。ぜひご利用ください。

登録方法 メローねっと登録アドレス(mellow-entry@tokyoanpi.sbs-infosys.com)に空メールを送信し、返信される案内に従い、ご登録ください。

◇二次元コード対応の携帯電話をお使いの方は、右の二次元コードからもアクセスできます。

